

## 管内月間火山概況（令和6年9月）

仙 台 管 区 気 象 台  
地域火山監視・警報センター

## 噴火警報及び噴火予報の発表状況（10月2日現在）

| 警報・予報  | 噴火警戒レベル<br>及びキーワード | 該当火山                                                 |
|--------|--------------------|------------------------------------------------------|
| 火口周辺警報 | レベル2（火口周辺規制）       | 岩手山                                                  |
| 噴火予報   | レベル1（活火山であることに留意）  | 岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、秋田駒ヶ岳<br>鳥海山、栗駒山、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山 |
|        | 活火山であることに留意        | 恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳                                  |

## 各火山の活動状況及び予報警報事項

主な火山の活動及び予報警報事項の状況は以下のとおりです。

岩手山では、10月2日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引き上げました。

その他の予報警報事項に変更はありません。

## 岩木山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 八甲田山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 十和田〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

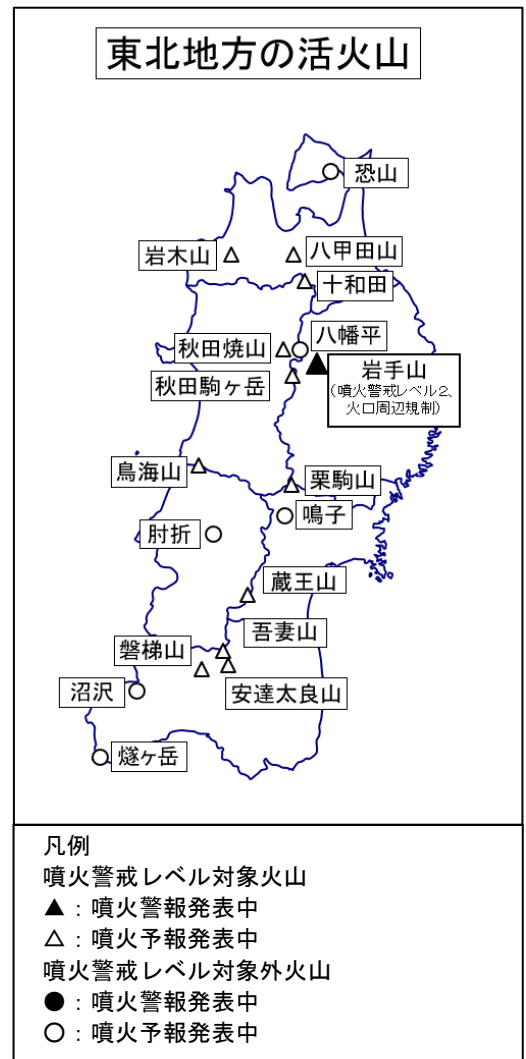
GNSS連続観測で認められている2020年中頃からの秋田焼山を挟む基線の伸びの変化は、2022年終わり頃からやや鈍化しつつも継続しています。地震活動や噴気、地熱域等には特段の変化はみられません。火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

## 岩手山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

←10月2日（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ

岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測では、2024年2月頃から山体の深いところの膨張を示す地殻変動が観測されています。

一方、国土地理院によると、9月26日に観測された「だいち2号」のSAR干渉解析結果では、大地獄谷周辺に、衛星に近づく変動が見られます。この変動は、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張を示して



いると考えられます。

また、黒倉山付近で発生している微小な火山性地震は、増減を繰り返しながら引き続き観測されています。

岩手山では火山活動の高まりがみられており、今後、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2 kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。このため、10月2日15時00分（期間外）に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

西岩手山の想定火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

また、噴火時には火口の風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

#### 秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

今期間、火山活動に特段の変化はありませんでした。

山頂付近では、火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しています。そのうち女岳<sup>めだけ</sup>付近では2015年頃まで地熱域の拡大がみられ、その後大きな変化は認められていませんが、中長期的には地震活動や熱活動がやや高まった状態で経過していることから、その推移に留意が必要です。

#### 鳥海山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

#### 栗駒山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

#### 蔵王山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

#### 吾妻山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山性地震は少ない状態で経過しており、また、大穴火口周辺では緩やかな地盤の収縮を示唆する変化がみられていることから、山体浅部の熱水活動は低下しているとみられます。一方で、火山ガスや噴気・地熱の活動は継続していますので、今後の火山活動の推移には留意が必要です。また、入山する際には火山ガスに注意してください。

#### 安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

#### 磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕

GNSS 連続観測で認められていた2022年後半からの山体膨張を示すわずかな変化は2023年10月頃から停滞していますが、火山性地震は2022年10月以前に比べて多い状態で経過していますので、今後の火山活動の推移に留意してください。

上記以外の火山の活動状況に特段の変化はなく、予報警報事項に変更はありません。

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山で運用しています。

---

この管内月間火山概況は気象庁ホームページで閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の管内月間火山概況（令和6年10月分）は令和6年11月11日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土交通省東北地方整備局、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）、青森県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図25000（行政区・海岸線）』を使用しています。